



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 1 号
平成 27 年 4 月 8 日 (水) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「枝に巣を持つ小鳥の如く」

校長 やました せいじ
山下 誠二

平成27年度が始まりました。323名の新入生を含め、一人ひとりが夢と希望を持って、一年のスタートを切ったことと思います。保護者、地域の皆様には、本年度も本校の教育活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長4年目も、目指す生徒像として「元気に登校」「笑顔で下校」、行動目標も変わることなく「さわやかなあいさつを交わせること。」「宮原中学校の校歌を大切にしっかり歌うこと。」「下駄箱や玄関等で、靴のかかとをしっかりそろえること。」この3つを継続して取り組んでまいります。

だれかが 実力を試してくれるかも知れぬ
そして 点数をつけてくれるかも知れぬ
それでいい そこから未来へ出発するのだ
そこから 新しい風景が見え始めるのだ

自分の足で 一人の実力で 山道を登る
一步一步 どんな天景がひらけるのか
苦しんで登ってみなければ わからない

<進もう>と決意するからこそ 道がある
自分の道は 自らの努力でしか歩けない
それを 身をもって確かめるための 出発

花たちは 開く行為によって光に出合える
鳥たちは 飛び行為によって風と遊べる
人もまた 意欲的に出発する行為によって
それぞれが 本当の<希望>に出合える

これは、宮澤章二さんの詩集「出発の意味」という詩です。新たな出発の4月、子どもたちは、節目節目で、蝶が脱皮をするように新たな出発を続けていきます。自分にとっての出発の意味。なりたい自分をしっかりとイメージして、新学期を迎えてほしいなと心から願っています。

卒業式の式辞でも紹介させていただきましたが、東日本大震災後、毎日のように流れていた「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える。このACコマーシャルのフレーズは、宮原中の校歌を作詞していただいた宮澤章二さんの「行為の意味 青春前期のきみたちに」という詩集の中の一節です。宮原中の校歌は、今から52年前、昭和37年1月7日に完成し、1月26日に制定されました。校歌の詩を考えると、宮原中の北側に住んでおられた宮澤さんと代表生徒50名ほどが音楽室で、

どのような言葉を入れたらよいかという話し合いがもたれたそうです。その話し合いでは、毎年春になると、生徒が造った巣箱が、校庭の木々に取り付けられていたので、生徒からの提案の中に「巣箱」のこゝを入れてほしいという話があり、その提案が生かされ、校歌の3番にある「枝に巣を持つ小鳥の如く」という一節が生まれました。宮澤さんが手がけられた校歌は、埼玉県内を中心に300校以上にのびます。また、宮澤さんのご子息、お二人は宮原中学校の卒業生でもあります。

今年も一人ひとりの生徒が、いろんな方の想いがしっかり詰まった宮原中学校の校歌を大切に、体育館やさまざまな場所で響かせてくれることを期待しています。